

議 事 録

名 称	平成29年度第1回深川市総合教育会議
開催日時	平成29年11月30日(木) 開会 午後1時30分/閉会 午後2時27分
場 所	深川市役所 第2委員会室
議 題	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 議題 (1) 学校教育振興計画(案)について (2) 道内道立高校の支援について 4. その他
出席委員	山下市長 早川教育長 宮田教育委員 定岡教育委員 轡田教育委員 倉本教育委員
欠席委員	なし
説 明 員	荒井教育部長 江刺学務課長 伊藤学務課長補佐 上田学務課長補佐
事 務 局	吉村企画総務部長 三浦企画財政課長 南茂企画財政課長補佐 鈴田企画係主査

会議の概要(発言の趣旨)	
発言者	議題・発言・結果等
吉村部長	<p>本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。</p> <p>ただいまから、平成29年度 第1回目となります深川市総合教育会議を始めさせていただきます。私は、事務局を担当しております、企画総務部長の吉村でございます。どうぞよろしくお願いいたします。議事に入るまでの間、進行役を務めさせていただきます。それでは、最初に山下市長よりご挨拶をお願いします。</p>
山下市長	<p>みなさん、時節柄お忙しいなか、深川市総合教育会議にご出席いただきまして感謝申し上げます。</p> <p>「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成27年4月1日から施行されたことに伴い、全国の地方公共団体において総合教育会議を設置することになったことを受けて、本市においても設置をすることになりました。</p> <p>平成27年の第1回深川市総合教育会議では、「深川市教育大綱」を決定しまして、昨年の会議では、学力向上施策と深川中学校改築についてを議題とし議論いただいたところです。</p> <p>本年は2つの議題を用意させていただきました。深川市の将来を担う児童・生徒が、豊かな心と生きていく力を身につけられるよう活発な議論をお願いし、冒頭のあいさつとさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
吉村部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、「深川市総合教育会議運営要綱」の規定により、これからは山下市長が議長として進行させていただきます、よろしく願いいたします。</p>
山下市長	<p>それでは、これからは私が議長として会議の進行をさせていただきます。</p> <p>この会議は、あまり形式にとらわれず、自由発言による委員間協議が基本となりますので、活発な議論をお願いします。</p> <p>それでは、レジュメに従いまして、3. 議題の(1)「学校教育振興計画(案)について」</p>

会議の概要(発言の趣旨)	
発言者	議題・発言・結果等
山下市長	<p>これをまず議題といたします。</p> <p>まずは、荒井教育部長から資料の説明をお願いします。</p>
荒井部長	<p>私から「学校教育振興計画(案)」につきまして、ご配布の資料を基にご説明をさせていただきます。</p> <p>ご配付の資料、1ページをご覧ください。</p> <p>中段の「2. 振興計画の役割」に記載しておりますが、深川市学校教育振興計画は、「本市が目指す学校教育推進の基本的な考え方を示すもの」として、「教育基本法第17条第2項に規定する地方公共団体が策定する教育の振興のための施策に関する基本的な計画という性格を併せ持ち、教育委員会が策定するよう取り進めているものでございます。</p> <p>なお、この計画の基本的な理念を示す「第1編 深川市学校教育振興基本構想」の1ページから6ページまでにつきましては、平成26年3月に策定済みでありまして、このたび、その中で必要な見直しも含めて、基本目標や重点となる項目に基づく施策・事業等の具体的な取組みについて示す「学校教育振興計画」を第2編として7ページから最後まで、追加する形での案を資料のとおりまとめたものでございます。</p> <p>この「第2編」では、「第1編」、6ページに記載の「施策の体系」左側の基本方針として掲げた6つの方針について、個々に章立てして7ページからの「第1章 確かな学力」から31ページからの「第6章 学びを支える教育環境」までの章ごとに、それらを実現するための基本施策について記述しております。</p> <p>このように、6ページの「施策の体系」をご覧くださいますと、これが、そのまま、第2編の目次の役割にもなっておりまして、基本方針が、それぞれ第2編の章になり、章ごとに「現状と課題」を記述したうえで、基本施策、施策の方向について項目ごとに考え方を記述し、具体的な「施策の概要」と「目標」を掲げていく構成としています。</p> <p>それでは、第2編の特徴的な部分について、主な内容を申し上げさせていただきます。</p> <p>初めに、7ページからの第1章「確かな学力」では、基礎・基本の定着や学校外での学習習慣の確立が必ずしも十分でない現状にあると捉え、子どもたちの確かな学力の定着のため、学習サポートプログラム事業の実施や少人数指導に取り組むこと、などを記述しております。</p> <p>続く、14ページからの第2章「豊かな心」では、本市の小中学生は規範意識が身につけている一方で、自尊意識については、小学生が高く、中学生は低いことが伺える等の現状がありまして、道徳教育や体験活動の推進、情操教育の充実を努めること、などを記述しております。</p> <p>続く、19ページからの第3章「健やかな体」では、平成28年度の全国体力運動能力運動習慣等調査の結果から、本市では、小学生の体力合計点は、全国並みである一方、中学生は全国平均を下回っている現状にあり、体育授業の工夫改善の取り組みのほか、健康教育や食育の推進に取り組むこと、などを記述しております。</p> <p>次に、24ページからの第4章「家庭・地域の連携」では、地域に開かれた安心・安全な学校づくりを進めるためには、学校・住民・行政が地域活動に参加し、互いに支えあうことが大切となることから、家庭教育の充実や開かれた学校づくりのための地域公開日の設定、それからコミュニティスクールと呼ばれる学校運営協議会制度の導入を目指すこと、などを記述しております。</p> <p>次に、26ページからの第5章「信頼される学校づくり」では、教員の資質向上のための研修等の充実や、学校間連携として、小中学校間の連携の促進等に取り組むこと、などを記述し、最後に、31ページからの第6章「学びを支える教育環境」では、現在の学校配置を当面維持することを前提に、学校施設の充実、老朽化する施設の適切な改修や、教材・教具の充実を努めることなどを記述しております。</p> <p>以上で配布資料の説明を終わります。</p>
山下市長	<p>ただいま学校教育振興計画(案)の概略の説明がありました。構成などはご理解いただけたかと思います。各委員からそれぞれ意見や考え方について一言ずついただきたいと思っております。まず、宮田委員さんをお願いします。</p>
宮田委員	<p>私のほうから2点ほど意見を申し上げたいと思っております。</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
宮田委員	<p>一つ目は、先日全国の学力テストの結果が報道され、全国全道そして空知として結果が出たのですが、多少数字のちがいはありますが似たような数字が出ておりました。</p> <p>やはり私は児童・生徒については、昔から学力の向上のため勉強をしっかりとしていくということが一番だったと思っています。</p> <p>最近学校の先生に聞くところ「中学校に入っても九九が十分にできない」という話を聞きました。何故かという、小学校3年生、4年生時にしっかりと基礎、基本の学習が出来なかった、という子どもが小学校5年生、6年生、中学へ進学して、そういった結果になるのではないかと思っております。</p> <p>特に小学校3年生、4年生時の学習は小学校1年生、2年生時と違ってもう一歩進んだ、いろいろな基礎について教えられる時期なので、当然つまづくこともありますが、特に小学校3年生、4年生時の基礎の学習についてはしっかりとしてもらい、特に支援員も付いていただいて、もしもそこで差がついている子が居れば、そこからしっかりとリスタート出来るようなそんな教育・学校であって欲しいと思っております。</p> <p>また、家庭学習等につきましても、北空知については少ないという数字が出ていますので、学校、PTA等と協力しながら、俗に言う宿題を出して貰いたいと思います。</p> <p>ただ、先生一人では大変なので、市販の資料などを活用していただき、勉強時間を増やして、しっかりと学力の向上に繋げていただきたいと思います。</p> <p>二つ目は、27ページにあります「小中連携教育」であります。</p> <p>今の子どもたちについては、いろいろな情報が錯綜している状態にありまして、なかなかその子に対しての情報を共有しきれないという状況ではないかと思っております。</p> <p>例えば、小学校、中学校の先生同士で子どもに対しての情報の共有がないと思います。昔はもう少し情報共有が出来ていたと思いますが、最近は情報共有が頻繁に出来てないと感じます。特に中1ギャップやいじめにしても、少しでも小学校、中学校の情報が共有できていれば早く手当てが出来るのではないだろうかと思っております。そういった機会を作って情報共有を頻繁に行ったほうがいいのではないかと感じております。</p> <p>総合的に学校教育振興計画を読ませていただきましたが、幅広く網羅されていて非常に良い計画だと感じておりますが、やはりメリハリをつけるということにも目配りをしていただければと思います。</p> <p>以上2点お話しさせていただきました。</p>
山下市長	定岡委員さんお願いします。
定岡委員	<p>私からは3点意見を述べさせていただきますと思います。</p> <p>1点目、資料9ページの中段2番目の「少人数指導及び習熟度別指導の拡充」ということで、これは保護者からの評価は大変良いと聞いており、それを踏まえ、市として更なる拡充を進めていただきたいという要望を意見させていただきます。</p> <p>2点目、4番目の「主体的・対話的で深い学びの実現」タブレット端末等を使用した授業ということで、現状としては資料の32ページにもありますが、小・中学校におけるタブレットPC導入ということで小学校1校あたり7台、中学校では0台という状況ですが、先般の学校訪問のとき、タブレットで数学の授業を非常に楽しく取り組んでいる生徒がいらっしゃり、とても有効な方法だと私は思いますので、この目標に少しでも近づけていただきたいと思っております。</p> <p>最後に3点目、資料の13ページ目標の2番目、「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答する児童生徒の割合、小学校では88.1%、中学校では66.0%と、私個人的には夢・目標などは人生で非常に大切なものだと思っておりますので、中学校で66.0%しかいないというこの数字を踏まえ、要望として、小・中学校対象に目標を持つ大切さ、モチベーションをあげるセミナー等の開催をお願いしたいと思っております。</p> <p>例えば日本ハムファイターズの大谷選手が実践しておりました「原田メソッド」などを開催していた方を呼んで講演会をして貰うと、一人でも多くの生徒が目標・夢を大事だと認識して、このパーセンテージが上がれば良いと思っております。</p> <p>以上です。</p>
山下市長	倉本委員さんお願いします。

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
倉本委員	<p>私は今回3点ほど意見がございます。</p> <p>まず10ページの「家庭と学習を通じた読み能力の向上」というところに、子どものころに読書活動が多い成人ほど未来志向、社会性、自己肯定、意欲・関心、文化的作法・教養、市民性のすべてにおいて、現在の意識・知能が高いと記載されていますが、学習能力が今、深川市の小学生は追いついていますが、中学生は追いついていないということで、幼いころから読書に触れていると、大人になったときに能力が発揮されるという調査結果も出ておりますので、難しいと思いますが、家庭で読書の時間を持つように指導してほしいと思います。</p> <p>また、深川市でも図書を活用した取り組みなどがありますが、学校で何らかの工夫をして、時間を取り決めて、より一層音読する、読書をするという機会を設けてもらい、将来能力が発揮されるように基本を作っていたらと思います。</p> <p>次に21ページにあります食育についてですが、学校訪問で子ども達と給食を食べ、触れ合ったりさせていただいたのですが、やはり食べ物に対して、例えば朝ごはんを食べなかったり、食パンを一枚焼いて食べていたりしているなど色々な子がいたり、なかなか習慣がないようです。「食べる」ということは生きることにおいて、一生においても大切で、体を作るうえでとても大切なことですので、食育に関しても、給食センターからもいろいろな講師の方に来ていただき、珍しい食材を子ども達に見せていただいたりして、理解を得て興味を持っていただくということもしております。「食べる」ということに対して基本になることなので更に理解を深めていただけるように進めていただけたらと思います。</p> <p>戻りまして15ページ「郷土ふかがわへの愛着心を育成します」とありますけれども、深川市にいる子どもたちが育ちますけれど、なかなか深川市に企業も少なく、深川市に戻ってくる、もしくは残ると子どもが少なく感じます。深川市から外に出たときに「深川ってなんだっただろう」と思ったときに、深川市について知識がなかなか少なく、外に出てみて、何が有名だったんだろうということもなかなか分かっていないようです。グローバル化が進んで世界各国に進出するときに「日本はなんだろう」ということもかなり意識するところなんですけれども、理解をもって深川市にふれて生活することで、外に出ても温かい深川市で育ったということが、よりその後の活躍の場を広げることにつながると思いますので、深川市に愛着心を持って、もっと知って体験していく機会を設けて貰えればと思います。</p>
山下市長	嚮田委員さんお願いいたします。
嚮田委員	<p>学力向上に関しまして、小学校においては複式学級が増加しております。急激な少子高齢化という時代を迎えた中で、先生方も二学年を一教室で見なければいけない、補助教員として入っていた二人体制という場面もあるとは思いますが、それでも心配する上級生の親御さんもいらっしゃいます。</p> <p>まず1つに、定岡委員がおっしゃったようなタブレットによる学力の向上、これからITの部分が非常に社会的にも重要になってくることを考えて、深川市においても許されるなら出来るだけ早く学習教材の中に、タブレットを多数導入することによって子どもたちがそういうものに親しみながら学習できる場面を作っていただきたいと思っております。これから小学校でも英語教育が始まるという部分も含めまして、ぜひ実現していただけたらと思います。読書力などもあります、先生方の負担になると思いつながら、最近では電子黒板を上手に活用し先生方は導入していて、最初は電子黒板を導入するソフトもなかったようですが、最近、学校訪問させていただいた際に、電子黒板を非常に有効活用しているように感じました。小学校からの英語教育の導入につきましても、それぞれ先生が準備をしてくださっているようで、そんな中でやはりAETがいれば非常に有効な部分もあると思っておりますけれども、これから評価し点数をつけていくにあたりましても、タブレットなどは有効な活用ができるのではないかと思います。全国学力テストの結果におきましても、非常に深川市の生徒さんはがんばって、小学生は立派な成績を収めたと思っておりますし、中学生にもそういうものを活用してつなげれば成績の伸長につながっていくと考えております。</p> <p>もう1点は冒頭申し上げました少子高齢化で市内小学校の複式化が進んでいますけれども、現行のところでは、しばらくの間は学校配置についてそのまま存続をということですが、近い将来、統廃合の問題を含め色々考えなければならぬ時が必ず来ると実感しております。</p> <p>生徒数の減少、地域社会のさまざまな減少によって、そのときが来るときに深川市として</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
巒田委員	小学校の学校配置をそろそろ見据えなければならない時期なのではないかということをお自身は感じております。そういうのも含めて手厚い部分で、生徒さんの補助教育等をつけていただいておりますこと、また、特別支援につきましても、現 PTA の方々は、補助教員や特別支援の先生方の努力に対して、お礼を言われることがありますので、この場を借りてお礼を申し上げます。そういう部分についても中学生になっても特別支援について、大きなご支援をいただけるような教育環境を作っていただきたと考えております。以上を申し上げます私の意見とさせていただきます。
山下市長	早川教育長からも何かあればお願いします。
早川教育長	学校教育振興計画を見ていただいていますけど、一番の目的は学力の向上であります。4月から教育長をさせていただいて思うのは、やはり学力の向上には、資料24ページに記載がありますが、なんといっても家庭・地域の連携が必要となります。家庭学習調査を見ても分かりますが、子どもたちが家に帰っても予習・復習をあまりする状況ではなく、また、せっかく夏・冬休みのチャレンジ深川を実施しても参加率が低いなど、部活動の参加などの理由もあるとは思いますが、そういったことも含めて、これからは家庭と地域がより連携していかないとなかなか学校現場だけで学力を向上させるのは難しいのではないかと思います。今コミュニティスクールの導入も進めているところですが、そのような点を踏まえ、より家庭と地域が連携して学力向上、学習環境の整備というのを考えていきたいと思っております。
山下市長	それぞれ意見発表をさせていただきましたが、私も細かなことを挙げればきりがありませんが、一点だけ。倉本委員のおっしゃっていた郷土愛、郷土に対する理解を深めて、将来深川市を離れて活躍する子どもに、自分のふるさとをきちんと自信を持って説明できる、そういう子にぜひなってほしいという想いから、就任後にすぐ市内全ての生徒さんに、深川は米のまちという私の考えから、米作り、水田の現場、収穫された米など、米＝郷土・深川ということ、たくさんのことは学べないかもしれないけれども米について学びの時間を設けて欲しいといった記憶があります。今でもやっていたらいいと思いますが、米だけでは足りないということもあるかもしれませんが、そのことが大事になるのではないかと思います。タブレットに関連して早々に国の経済対策一環として、反対もありましたが電子黒板を導入したという経緯があります。あまり活用されなくダメなのだろうかと思っていましたら、巒田委員がおっしゃっていました、結構有効にツールとして活用されていると聞き、もう少し色々普及・充実のための努力を大切にしていこうと感じました。いずれにしても、それぞれ発表していただいた意見等について、提言も含まれますが誰も納得できる内容だったと思います。これはまだ振興計画の案ということで、今文章に持ち込まれている部分について、もし必要に応じて表現を変える考慮すべきものがあるなら、ぜひ充実に向けて考えたほうがいいと思います。多くの意見は、この計画で決められたことを受けて運用として、予算をカットしたり知恵を出して色々工夫したり課題に取り組む、ということを実際にやればこの計画そのものをいじらなくても全ての項目を前向きに受け止めて対処していくように、教育委員会だけでなく、市長部局も含めて対応していけたらと思います。皆様から何か追加で意見があればどうぞ（意見なし）それでは「市内公立高校の支援」について、これを2つ目の議題にします。荒井部長から資料の説明をお願いします。
荒井部長	「市内公立高校の支援」について、ご説明をいたします。北海道教育委員会が本年9月に策定しました、平成30年度から32年度を計画年度とする「公立高等学校配置計画」におきまして、平成32年度からは深川東高で1学級の減という計画が示され、さらに平成33年度から36年度までの見直しにおいては、空知北学区内において、4年間で2から3学級相当の調整が必要であり、また、滝川市内・深川市内において、再編を含めた定員調整の検討が必要と示されました。将来的に本市の中卒者数の減少が見込まれることから、ご承知のとおり本市では、平成26年度から両校と意見交換を行ないながら、魅力ある学校づくりの取り組みに対して支援を行ってきておりまして、深川東高では、今年度の入学人数が昨年度よりも18人増加する

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
荒井部長	などの変化が表われたところでありまして。そこで、ご配付の資料、1ページの上段をご覧ください。深川東高校、深川西高校、それぞれ普通科校と職業科校として2校の存続を目的に、両校の魅力づくりに向けたこれまでの取り組みのうち、本年度の本市の支援内容をお示しするので、記載の通り「深川市公立高等学校の魅力ある学校づくり事業支援交付金実施要綱」に基づきまして、生徒の研修等に関する事業をはじめ、平成28年度からの通学交通費助成に関する事業などに支援しております。また、下段には、両校からの依頼により、「保護者へのご案内」に利用していただくよう作成した文書データを掲載しておりますが、このように、所管では両校と随時、連携をとりながら本取組に努めているところでございます。次の2ページをご覧ください。平成28年度の深川東高校への支援の実績でありまして、特に上段に記載の検定受験料補助事業では、延べ612人も生徒に検定料の補助をしておりまして、この年度では、東高から、2年ぶりに全国商業高校協会主催の検定試験で1級3種目以上の取得者が3名出たとの報道がなされたところでございます。次の3ページは、平成28年度の深川西高校への支援の実績でありまして、最初に記載の「将来の目標・意識づけに関する事業（カタリ場）」は、現役大学生等が先輩としての体験談を話したり、生徒からの進路についての相談を受けたりするなど、語り合いの場を行う事業が特徴的で支援を始めた当初から西高から要望のあったものでございます。以上で資料の説明を終わります。
山下市長	公立高校への支援策について、ここ数年、力をいれて取り組んでいる事業でございます。他の委員から何かご意見がありましたらお願いします。
宮田委員	なかなか難しい問題だと思います。たぶん看護学校などは市内の子どもたちを優先的にとっていると思いますが、表に向けてアピールするなど、そういったところに欠けているかと思えます。当然子どもたちもですが、親御さんも関心があると思えますので、広報ふかがわ等を利用するなど、もう少し前向きにアピールしていく必要があると思えます。もう一つは、絶対数といいますか、子どもたちの数が年々減っているということで、やはり子どもたちがどのような高校を望んでいるのか、どのような高校に入りたいのか、アンケートのようなものを中学校一年のときにとると同時に、親御さんにも親としてどのように考えているのかという意見を聞くのもいいのではないかと感じています。どちらにしてもなかなか特効薬はないので、地道にそういうことを積み重ねていくのが必要だと思います。絶対数が減っているのはある意味大変だと感じています。以上です。
山下市長	定岡委員さんお願いします。
定岡委員	私からは2点ほど意見を述べさせていただきます。資料2の1ページ目の(2)模擬試験又は資格取得試験の受験助成に関する事業について、市としては補助するというだけではなく、学校へよりよい結果を求めていくべきだと考えています。教育部長より1級取得者が3名と言う報告がありましたが、さらに学校の先生方の協力をいただいて合格者をより出していく、それが学校の魅力度の向上につながり、かつ生徒にとってもよりよいものになっていくのではないかと考えております。2点目は(4)の通学交通費助成に関する事業ですが、保護者の方々より非常に助かっていると言う声聞くのでこれからも継続していただけたらと思います。以上でございます。
山下市長	倉本委員さんお願いします。
倉本委員	私からは、やはりアピールすることは大事だと感じました。どんな卒業生・先輩がいるのかということも就職にはつながることなので、こういう先輩が、日本や世界で活躍しているということを知ること、進学することにおいて魅力になると思えますし、そのアピールの仕方、西高のように先輩たちの意見を聞いたりしていますが、例えば東京や外国で活躍している西高や東高の先輩方の意見も分かりやすく発信できると、自分たちもそうなりたいとい

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
倉本委員	<p>う希望を持つ材料になるのではないかと思います。</p> <p>助成を出す件に関しては、親が助かるので予算があれば続けていただきたいと思っておりますけれども、やはり特徴がある、行きたいと思う学校ではないと生徒が集まってこないと思うので、今の学校のあり方、西高・東高がいいのかを踏まえて、例えば、深川市では福祉関係の施設がかなりあり、実習できる施設もあるので、福祉関係に特化したところを作るなど、すぐには出来ないでしょうが、深川市にすれば一人前になれるという分野などがあると、かなり強気に魅力が増えるように思います。</p> <p>以上です。</p>
山下市長	<p>饗田委員さんお願いします。</p>
饗田委員	<p>道教委の説明も聞いていますが、どうしても数字先行で深川市の西高校東高校の生徒数は将来的にこのくらいで、深川から滝川方面旭川方面に流出する人数は%でこのくらいで滝川方面旭川方面から通ってくるのはこのくらいと、レジェメで説明されると、だんだん将来的に深川市の生徒数が減少するので早く西高か東高どちらかを閉じるか合併するか、というような強迫観念に迫られて道教委の話を聞いておりました。</p> <p>昨年東高校の入学式に出席する機会がありまして、入学数が定員に満たないで減少している、拓大副学長の土門先生がいらっしゃったのでそのことをお話ししたら「東高校がなくなったら困る、東高校から拓大に入学してくる生徒もたくさん居る、ぜひ存続して欲しい」とおっしゃっていました。そのようなことを考えてみますと、学校間、拓大や西高校などとの連携などの広報活動・PRができていなく、高校から大学へ推薦などのつながりなど、もっと勉強する場面があるのではないかと思います。</p> <p>巷では、早く統合してしまったらどうかという意見も時々聞くこともありますが、西高校の学年が4学級から減ってしまうと大変なことで、むしろ統合的な体制のほうが総合的にいいのではないかとおっしゃる方もいる中で、教員数や活性化の問題からも、何とか2校存続ということが市内の教育環境においても適切であると思います。ですから、国の方針や道教委の数字だけでこれらと大変難しく感じますが、何か学校関連形のコマーシャルをして欲しいと思います。</p> <p>今資料を見ると、西高校で大学の検定試験など10人足らずで、センタープレ試験を受けている生徒数が非常に少なく、在校生自体が上の学校を目指す意識が大きくないのかなと思っております。先ほどの小中学生の自尊心というところと共に、将来性の夢というところが欠けているのか、そういうところも考えたほうがいいのではないかと思います。</p> <p>もう1点は、西高校の校長先生がバドミントンで良い成績をとって有名になったとき、学区外からも入学した生徒が居たのですが、下宿をする場所が少ないので何とかならないかという話がありました。以前は寮などもあったことがありますが、現在は分かりませんが下宿をしながら学区外からスポーツで入学がしたいという生徒さんを西高校で数多く受け入れられる地域態勢を作っていただけたらと思っております。</p> <p>以上です。</p>
山下市長	<p>早川教育長お願いします。</p>
早川教育長	<p>広い意味での高校の存続ということで申し上げますけれど、一番大切なことは先ほど饗田委員さんがおっしゃっていたように連携の強化であると思います。高校は道立高校なのですが、ここと市内の小学校・中学校につなぐ、つまり、正しい情報が現場の特に高校から小学校・中学校に伝わるような体制を取らないと、誤解や思い込みで判断されてしまい、両高校の校長先生等から話を聞くと理解されてないといえます。あるいは拓殖大学との連携についても、PTA 含め保護者の方に正しく情報が伝わっていないことを強く感じました。今年は、広報ふかがわの7月号及び11月号で特集記事を掲載しましたが、こういうことを継続してやっていく必要があると強く感じました。拓殖大学にも影響があるということもありますし、もっと広くいうと公共交通においても通学で乗る生徒さんは、大事なお客様でもあります。市内経済的な観点から申し上げてはいけない点もありますが、そういうものにも影響があると感じております。</p>
山下市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>一通りご意見をお伺いしましたが、この問題は地域の活力維持といった観点や色々な角度</p>

会議の概要（発言の趣旨）	
発言者	議題・発言・結果等
山下市長	<p>から重要な課題として、個人的な意見としては断固2校体制を維持したい、そのためにはあらゆる努力をしていきたい。その観点からPRの重要性や高・大連携のPR、高校と中学の連携と橋渡し、接触密度を高めるなどの諸課題は、委員さんのおっしゃるとおりだと思う。学校の魅力づくりをしっかりと充実していくとして、予算以外で特に教育委員会が、中・高連携にかかる連絡や親密な関係作りという橋渡しが必要になると思う。大変貴重なご意見を賜ったということで、これを生かしていけるようにぜひ頑張ってもらいたいし、頑張っていきたいと思う。教育委員会で出来ないようなことについては、企画財政課や市長部局で連携していければと思います。</p> <p>今日は大変いい議論をしていただいてありがとうございました。</p> <p>これで議題として2つの内容は終了いたします。</p> <p>それでは4、その他ですが、事務局や教育委員会から何かありますか。</p> <p>（特になし）</p> <p>無ければ、以上で議事は終わります。</p>
吉村部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは以上で平成29年度第一回深川市総合教育会議を終了させていただきます。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>